女王雌日芝（メヒシバ）

新倉　葉音

春の陽を浴びている一叢のメヒシバ
新緑を風にさらして揺れる
笹のようなしなやかな葉
その優しさを楽しんでいる間に
足下では茎が縦横に這い出し
勢威を振るっているはずだ
その音が聞こえているのは空耳なのか

茎は分岐しながら細い根を出し
踏まれても引き抜かれても
そこから再生し
生き残っていく
夏　戦いの始まりだ
日焼け止めクリームを厚塗りし
垂れつき帽を目深に被り
鎌を片手にメヒシバに向かう
負けるのはわかっている
しかし放っておくわけにはいかない
やがて花芯が立ち上がり放射状の穂から
何万個もの種子がばら蒔かれる
災害に備えて
一斉には発芽しないという種
雑草の女王と言われるメヒシバは

したたかな知恵ものだ

節をひとつひとつ
ほじくり出すと背丈ほどの株になった
匍匐前進　陣地拡大
補給は節々が担いどこまでも広がってゆく
砂利の駐車スペースに草の山ができた
草はすぐに萎れいずれ消えてゆくが
人の戦いが積み上がる瓦礫の山はどうだろう
無意味そのものだ
消せない想いが過る

有史以前から生き続けているメヒシバは
土と陽の光さえあればどこへでも
今や世界を制覇しつつあるらしい
除草剤などどこ吹く風だ